

**寄贈図書リスト**

写真集 太陽, 柴田一成・大山真満共著, B5 判, 92 p,  
4,500 円, 裳華房  
宇宙を見る新しい目, 日本物理学会(編), A5 判, 223 p,  
2,500 円, 日本評論社

宇宙年鑑 2004, アストロアーツ, (財)日本宇宙少年団  
編, A4 判, 128 p, 1,480 円, アスキー  
さまざまなプラズマ, 高部英明著, 四六判, 103 p,  
1,400 円, 岩波書店  
太陽系の果てを探る, 渡部潤一・布施哲治著, A5 判,  
248 p, 2,800 円, 東京大学出版会

**月報だより**

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に  
掲載致します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく  
早めにお申し込み下さい。

e-mail で [jimu@geppou.asj.or.jp](mailto:jimu@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

**人事公募**

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

2 名の連絡先, 勤務先住所 e-mail address, 電話・FAX 番号。

8. 2004 年 6 月 10 日 (木) 必着。

9. (1) 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学大学院理学系研究科ビッグバン宇宙  
国際研究センター長 佐藤勝彦  
(2) 佐藤勝彦 (電話 03-5841-4207)

e-mail: [sato@phys.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:sato@phys.s.u-tokyo.ac.jp)

10. 封筒の表に「初期宇宙論部門教授応募」と朱書き, 簡易書留で郵送のこと。  
応募書類は原則として返却しません。

**東京大学大学院理学系研究科教授公募**

1. 教授 1 名
2. (1) ビッグバン宇宙国際研究センター「初期宇宙論部門」  
(2) 文京区本郷 3-2-1
3. 「初期宇宙論部門」
4. 当センターは「初期宇宙論」「初期宇宙データ解析部門」「外国人客員部門」を有しているが, 「初期宇宙論」部門は物理学の法則に基づき, 宇宙の創生進化を理論的に研究し, それに基づき観測的予言を行う部門である。
5. 決定後できるだけ早い時期。
6. 特になし。
7. (1) 履歴書, (2) 研究業績リスト, (3) 主要論文別刷 5 編以内 (コピー可), (4) これまでの研究の概要と今後の抱負 (A4 5 頁程度), (5) 照会可能な方

**茨城大学理学部自然機能科学科助手**

1. 助手 1 名
2. (1) 茨城大学理学部自然機能科学科宇宙物質学講座  
(2) 水戸市文京 2-1-1
3. 電波からテラヘルツ帯での観測的天文学 (装置開発を含む), もしくはそれと密接にかかわる実験室分子分光。これまでの研究分野は問わない。
4. 活発な研究を推進できる方。教育面ではご自身の専門と関連する科目や基礎的な物理実験の指導を担っていただける方。
5. 2004 年 10 月 1 日
6. 博士号取得者または着任時に取得見込みのもの, あるいはそれと同等以上の業績を有する者。
7. (1) 略歴・研究歴 (フォーマット自由), (2) これまでの研究概要, (3) 今後の研究計画と教育の抱

負, (4) 業績リスト, (5) 主要論文別刷 5 編以内,  
(6) 申請者について意見を述べられる人 2 名 (国内  
外を問わない) の氏名と連絡先.

※なお選考過程で必要と判断した場合, インタ  
ビューを実施することがあります.

8. 2004 年 7 月 5 日 (月) 必着

9. (1) 提出先: 〒310-8512 水戸市文京 2-1-1

茨城大学理学部自然機能科学科学科長

柳田昭平

Tel: 029-228-8394

e-mail: yanagita@mx.ibaraki.ac.jp

(2) 同学科 天竺堯義

Tel: 029-228-8361

e-mail: amano@mx.ibaraki.ac.jp

あるいは 百瀬宗武

Tel: 029-228-8402

e-mail: momose@mx.ibaraki.ac.jp

10. 封筒に「助手応募書類在中」と朱書き, 書留で送  
付のこと. 応募書類は原則として返却しません.

### 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

### 国立天文台 VLBI 分野教授

1. 2003 年 2 月 (第 96 巻 2 号)
2. 小林秀行 (国立天文台電波天文学研究系助教授)
3. 2003 年 7 月 1 日

### 名古屋大学大学院理学研究科素粒子宇宙物理学 専攻助手

1. 2003 年 4 月 (第 96 巻 4 号)
2. 吉田直紀 (国立天文台学振特別研究員)
3. 2004 年 4 月 1 日

### 鹿児島大学理学部助手

1. 2003 年 5 月 (第 96 巻 5 号)
2. 今井 裕 (Joint Institute for VLBI in Europe)
3. 2003 年 9 月 1 日

### 北海道大学低温科学研究所教授

1. 2003 年 7 月 (第 96 巻 7 号)
2. 山本哲生 (名古屋大学・環境学研究科)
3. 2004 年 4 月 1 日

### 九州大学大学院理学研究院教授

1. 2003 年 7 月 (第 96 巻 7 号)
2. 八尋正信 (琉球大理学部物質地球科学科教授)
3. 2004 年 4 月 1 日

### 国立天文台 VLBI 分野助教授または助手

1. 2003 年 10 月 (第 96 巻 10 号)
2. 柴田克典 (国立天文台地球回転研究系助手)
3. 2004 年 4 月 1 日

### 名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 2003 年 11 月 (第 96 巻 11 号)
2. 伊藤好孝 (東大宇宙線研助教授)
3. 2004 年 4 月 1 日

### 研究助成

#### (財)井上科学振興財団, 第 21 回井上學術賞・ 研究奨励賞などの受賞候補者

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は第 21 回  
(平成 16 年度)井上學術賞, 研究奨励賞の受賞候補者  
の募集をしております.

#### 第 21 回井上學術賞

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を  
上げた 50 歳未満の研究者に対し, 學術賞(賞状およ  
び金メダル, 副賞 200 万円)を贈呈する.
2. 受賞件数: 5 件以内
3. 募集方法: 指定の関係 30 学会, および財団の役  
員・評議員等からの推薦
4. 天文学会からの推薦件数: 1 件
5. 推薦締切日: 平成 16 年 8 月 20 日 (金) 学会着
6. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所か下記財団  
のホームページより

ほかに井上研究奨励賞, 国際研究会開催援助, 国  
際研究会出席旅費, 外国人研究者招聘, 井上フェ  
ロー, 久保亮五記念賞などの募集も行ってあります.  
こちらは井上科学振興財団へ直接応募となっております.

◎照会先: 財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15

南平台今井ビル 601

ホームページ:

<http://www.inoue-zaidan.or.jp>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

## 共同利用・共同研究

### 国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では、以下の観測プログラムの公募を行います。カバーシートの変更等もありますので、最新の詳しい情報はホームページ (<http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/> 5月6日より更新されます) をご覧下さい。

各観測プログラムと締切は以下のとおりです。なお、送付方法は e-mail または郵送でお願いいたします。

〈野辺山 45 m 鏡〉

第 23 期共同利用観測 (2004 年 12 月～2005 年 5 月)

- 一般前期: 2004 年 6 月 7 日 (月) JST 15:00
- 長期共同利用: 2004 年 6 月 7 日 (月) JST 15:00
- 一般後期: 2004 年 10 月 25 日 (月) JST 15:00
- Short Program 前期: 2004 年 11 月 15 日 (月)  
JST 15:00
- Short Program 後期: 2005 年 1 月 31 日 (月)  
JST 15:00

〈野辺山 ミリ波干渉計〉

第 18 期共同利用観測 (2004 年 11 月～2005 年 5 月)

- 長期共同利用: 2004 年 6 月 7 日 (月) JST 15:00
- 一般共同利用: 2004 年 7 月 7 日 (水) JST 15:00
- Rainbow 共同利用: 2004 年 7 月 7 日 (水) JST 15:00

国立天文台野辺山宇宙電波観測所  
所長 坪井昌人

### X 線天文衛星 Astro-E2 による X 線観測の 第 1 期観測公募のご案内 (AO-1)

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙科学研究本部 (ISAS) では次期 X 線天文衛星 Astro-E2 を 2005 年 2 月に打ち上げるべく、準備を進めております。この衛星の復活につきましては、天文学会をはじめとする関係者の皆様のご協力をいただいたこと、厚く御礼申し上げます。この衛星では、X 線望遠鏡とその焦点面検出器、硬 X 線検出器を搭載し、特に高いエネルギー分解能をもつカロリメーターにより新たな観測の可能性が期待されています。われわれは Astro-E2 衛星をより多くの天文学関係者に活用していただくため、以下の要領で観測プログラムの公募を行います。

1. 公募項目: X 線天文衛星 Astro-E2 による X 線天文観測提案 (観測が実施されるのは 2005 年 9 月より 1 年間)

2. 応募締切: 2004 年 8 月 18 日 (水)
3. 応募資格: 日本の大学、研究機関に所属する研究者
4. 応募方法、観測機器等に関する資料の詳細は宇宙科学研究本部 Astro-E ホームページをご覧ください。  
<http://www.astro.isas.jaxa.jp/astroe/>

宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部  
井上 一・國枝秀世

### 小惑星表面採集試料の初期分析参加研究者の 第 2 回コンペティションについて

2004 年 3 月

宇宙航空研究開発機構 (JAXA) ・  
宇宙科学研究本部 (ISAS)/はやぶさ  
サンプル分析検討委員会委員長 久城育夫  
宇宙・惑星物質分析研究者各位

宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部 (JAXA/ISAS) では、世界初の「小惑星サンプルリターン」に挑戦する工学実験探査機「はやぶさ (MUSES-C)」を、昨年 5 月に M-V 型ロケットにより成功裏に打ち上げました。現在順調に電気推進エンジンを連続運用しながら、本年 5 月の地球スイングバイに向けて惑星間空間を飛行中です。

探査機は 2005 年夏に大きさ 600 m×300 m ほどで S 型スペクトルに分類される近地球型小惑星 (25143 Itokawa) にランデブーし、全球観測した後、総重量数 g 程度の表面物質の微小破片粒子を 2007 年夏に地球へ持ち帰る予定です。採集場所が明らかでかつ地球環境と反応していない他の天体表面の物質を地上の研究室にもたらすサンプルリターンミッションは、アポロおよびルナ計画以来約 30 年ぶりであり、国内外の注目を集めています。

このミッションの科学的成果を最大限に上げるには、回収試料の初期分析とその後の詳細分析に供するための試料の管理・配分作業が、いかにシステムティックかつ正確に実施できるかにかかっています。そこで JAXA/ISAS では国内の各種分析手法の専門家にご協力いただき、はやぶさサンプル分析検討委員会を発足させ、初期分析および管理・配分作業の方針・実施方法などについて過去数年間、議論を深めてまいりました。

その結果、試料の初期分析を行う研究グループ (HASPET (Hayabusa Asteroidal Sample Preliminary Examination Team), 旧名称「MASPET」) を作るために参加者を広く日本全国に募ることになりました。HASPET は JAXA/ISAS の研究者および国際協力協

定を結んでいる米国およびオーストラリアの代表研究者とチームを組んで試料の分析を行うこととなります。この方針に従って1999年に第1回コンペティションを公募したところ、全国から11グループのご応募をいただきました。下記の要領に沿って国内外の研究者による二段階ピアレビューを実施し、2001年には6チームが当時の時点で初期分析チームに適切な高い分析技術をもっていると認定されました。詳細については、2003にJAXA/ISASが発行した「ISAS Report SP No. 16: The First Open Competition for the MUSES-C Asteroidal Sample Preliminary Examination Team」をご参照下さい。

その後探査機が無事打ち上がり、第1回実施から3年以上が経過して微量分析技法のさらなる進歩や優秀な若手研究者も登場しつつあるこの時期に、第2回コンペティションを開催することにいたしました。今回の参加資格には、前回参加の有無や評価結果は関係ございません。全国の分析研究者のご協力を賜り、世界初の小惑星サンプルリターン探査から最大限の科学的成果を引き出したいと考えております。ぜひ皆様の積極的なご応募をお願いいたします。

なお、ここでいう「初期分析」とは、試料回収後1年以内に国際的に公募が出される詳細分析に先んじて、採集試料全体の物性、化学的、岩石・鉱物学的特徴に関して基本的な記載を行い、詳細分析の応募に際して世界中の研究者が参考できるデータベースを作成することを目的としています。HASPETメンバーの最終審査は、第1回、第2回コンペティションの結果、はやぶさ探査機による小惑星でのその場計測で得られた知見、その他の参考情報から総合的に判断されます。チーム編成の発表は2006年初旬に行われ、日本全国で約10グループを選抜する予定です。2006年度には初期分析チーム全体で、あらゆる採集試料の条件を考慮した分析手順や手法を模擬するための初期分析リハーサルを実施します。その結果次第でHASPETメンバーの再調整を行うこともありえます。

今回の本審査も前回同様、書類審査および未知の試料の分析結果について行います。分析試料は、公平を期すために、あらかじめ準備されたものをJAXA/ISASから配布いたします。分析審査は、(1)分析結果およびその精度、(2)必要最小重量(特に破壊分析の場合)、(3)分析に要する期間などの観点から行われます。審査試料の配布は書類審査後、2004年8~9月の間のご希望日を予定しています。なお、試料を受領してから分析結果のレポートを提出していただくまでの分析期間は、最長6カ月とします。

募集締切: 2004年5月31日

応募書類郵送先および問合せ先:

宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部・  
固体惑星科学研究系(担当: 矢野 創 宛)

〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1

Tel: 042-759-8197 Fax: 042-759-8457

e-mail: yano.hajime@jaxa.jp

詳しくは以下のホームページをご参照下さい。

<http://www.muses-c.isas.ac.jp/Japanese/index.html>

## 会 務 案 内

### 【理事会議事録】

日 時: 2004年3月22日(月) 12:10~15:10

場 所: 名古屋大学東山キャンパス共通教育棟  
会議室1(1F14番)

出席者: 松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井,  
松原, 土橋, 土居, 田, 蜂巢, 谷口, 粟木,  
佐藤, 花見

欠席者: なし

有効委任状提出者: なし

ほかに、東條事務長が出席した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議 長: 松田卓也

署名人: 杉山 直, 郷田直輝

### 報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)  
杉山理事より前回(2004年1月10日)の理事会議事録が報告され、原案どおり承認された。

2. 2004年春季年会について  
開催中の年会の講演数(申し込み597件)、ポストデッドライン、企画セッション、記者会見などの基本事項について、土居理事より報告があった。名古屋市科学館で行われた公開講演会について、抽選で選ばれた340名ほどの出席者であり、非常に盛況であった等の報告が田理事よりあった。今回の成功を受けて、今後も科学館などとタイアップして行うことが提案された。

3. 次回以降の年会について(資料2)  
2004年秋季年会について、花見理事より準備状況が説明された。次回以降の年会に対する留意事項として、今回の年会で、ポスターボードが大量に破壊した件についての経緯や、アルバイトの募集がうまくいったことなどが、佐藤理事より報告があった。北海道大学で行われる予定である2005年秋季年会の日程が決まった。10月6日(木)~8日(土)の日

程で行われる予定である。

#### 4. その他

##### (ア) 総会議題など(資料3)

今回の年会での総会の議題について、杉山理事より報告があった。

##### (イ) 会員名簿の流出について(資料4)

会員から、会員名簿が名簿業者に流出しているとの報告を受けたことが杉山理事より紹介された。本年度は名簿改定が行われることもあり、取り扱いには十分注意されたい。

##### (ウ) 「月と星座の早見盤」特許について(資料5)

天文教材小委員会柴田委員長より、柴田委員長が発明者である「月と星座の早見盤」に関する特許を、三省堂と日本天文学会が共同で出願することの提案があり、杉山理事が代理で事情説明を行った。提案自体は、すでに持ち回りの理事会で承認されている。出願手続きは三省堂が担当し、特許申請にかかわる経費、および維持費に相当する特許料は、三省堂と日本天文学会が折半する。

##### (エ) 佐藤明達氏より早川基金に500万円のご寄付をいただいた。

##### (オ) 創立100周年記念出版事業編集委員会報告

標記委員会について、祖父江副理事長(編集委員)より活動報告があった。Web上でのアンケートを行う準備が整いつつある。

## 議 題

### 1. 新入会員の承認(資料6)

杉山理事より、資料に基づき、新会員の入会が承認された。併せて、退会者の報告があった。

### 2. 「日本天文学会委員会等に関する共通内規」の改正と天文教材小委員会の名称変更(資料7)

杉山理事より、改正案(資料7)が提案され、質疑応答の後、承認された。評議員会に、諮ることとなった。そこで認められれば、天文教材小委員会は、天文教材委員会に名称変更される。

### 3. 特別会計の基金化に関する規程制定(資料8)

関井理事より、内部留保水準の見かけ上の高水準を解消するために、財産運用に関する実務レベルの規程を制定するという提案と、規程の原案(資料8)の説明があり、質疑応答の後、承認された。

### 4. その他

#### (ア) 新事業等について(資料9)

祖父江副理事長より、現在の事務体制を見直し、欧文研究報告編集部の編集員1名を常勤化すべきではないか、という提案があった。現在、

1名の編集員が実質的には常勤と同様な勤務実態があるとの補足説明が、蜂巢欧文研究報告編集委員長、東條事務長からあった。ここで考えている常勤とは、有期雇用ではあるが、国家公務員行政職1-2の俸給表を適用し、健康保険、年金などについても、天文学会が応分の負担をする、ということである。現在、管理費、出版費の減少などから、天文学会の財政状況が健全であり、また今後も、少なくとも数年の間はこの状況が大きく変化することはない、との見通しもあることから、1名の常勤化が認められた。

つづいて、臨時の事業として、(1)講師派遣事業の強化、(2)年会登録料の減額、(3)天文学会百年史編纂、について検討が行われた。(1)については、要求の一部である名簿管理システムに関して、セキュリティ面の不安などから緊急を要する事項であるので、通常の学会の経費から支出する要求を出すことになった。もう一つの要求である運営経費に関しては、講師データベース等が完成してから検討することとなった。(2)については、会員の年会登録料を2,000円減額し、1,000円にする方向で考えることとなった。(3)については、実際の活動は次期の理事会からになると考えられるが、今期中には百年史編纂編集委員会(仮称)を立ち上げる方向で検討することとなった。委員会の予算に関しては、基金化をすることも検討する。

#### (イ) 来年度からの新役員・新委員の選出(資料10)

連休明けに実務担当理事会を行い、7月の理事会、評議員会に提出する原案を検討することとなった。それに合わせて、杉山理事が、委員会の委員長、各理事に原案の作成を依頼する。締め切りは5月10日。

#### (ウ) 「日本天文学会欧文報告論文賞内規」の変更

当該内規で、賞の名称を含め、正しくは「日本天文学会欧文研究報告論文」とあるべき箇所がすべて「日本天文学会欧文報告論文」と誤記されているので、修正したいとの提案が杉山理事よりあった。賞の名前だけはこれまでどおりにしておく、という案と、すべて変更する、という2案が提示され、検討されたが、すべて変更することになり、評議員会に諮ることとなった。

#### (エ) 日本宇宙フォーラム、衛星設計コンテスト主催について

地球電磁気・地球惑星圏学会より、日本天文

学会にも標記コンテストの主権に加わってもらえないか、との非公式の打診が田理事を通じてあり、郷田理事から補足説明があった。実行委員や審査委員に人を出し、また天文学会賞を出すということが、主催に加わるこの意味であるとの説明であった。原則的には、主催に加わる方向が確認されたが、正式な依頼を待つこととなった。

(オ) 次回は7月3日(土)、11時から、国立天文台(三鷹)で開催することを確認した。

2004年4月20日

議長 松田卓也 印  
署名人 郷田直輝 印  
署名人 杉山 直 印

### 【評議員会議事録】

日時: 2004年3月23日(火) 12:30~13:30

場所: 名古屋大学東山キャンパス共通教育棟会議室1(1F14番)

出席者: 井上, 海部, 加藤, 小山, 柴田, 須藤, 千田, 高橋, 舞原, 牧島, 吉井, 家, 池内, 梅村, 大橋, 小杉, 谷口, 観山, 山本 以上19名

欠席者: 福井 以上1名

有効委任状提出者: 太田, 岡村, 高原, 安東, 佐藤 以上5名

ほかに理事会から、松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井, 松原, 土居, および東條事務長が参加した。議事に先立ち、議長および署名人を選出した。

議長: 海部宣男

署名人: 舞原俊憲, 吉井 謙

### 報告

#### 1. 前回議事録の確認(資料1)

杉山理事より前回(2004年1月24日)の評議員会議事録が報告され、承認された。

#### 2. 当年会について

開催中の年会について、土居理事より報告があった。講演数は申し込み597件、ポストデッドライン2件と過去最高であり、参加者もここまでの779名と過去最高を更新する見通しである。また、ジュニアセッションが、39件の発表、280名の参加と非常に盛況であったことが特筆すべき点として挙げられる。その他、企画セッション、記者会見などの基本事項について報告があった。つづいて郷田理事より、名古屋市科学館で行われた公開講演会について、抽選で選ばれた340名ほどの出席者を得て非常に盛況であったとの報告があった。

#### 3. 次回以降の年会について

2004年秋季年会について、準備状況が杉山理事より報告された。また、北海道大学で行われる2005年秋季年会の日程が、10月6日(木)から8日(土)までに決まったとの報告があった。

#### 4. その他

##### (1) 総会議題等(資料2)

開催中の年会での総会の議題について、杉山理事より報告があった。

##### (2) 創立100周年記念出版事業編集委員会報告

祖父江副理事長(編集委員)より、全15巻の内容の1次案を決定したこと、まもなく1次案をWeb上に公開し、会員に向けてアンケートを実施するとの報告があった。アンケート結果を参考に、内容を決定し、執筆者の選定を行う。

##### (3) 欧文研究報告編集部編集員1名の常勤化について

関井理事より、現在の事務体制を見直し、欧文研究報告編集部の編集員1名を常勤化する、という理事会からの提案が報告された。現在、1名の編集員が実質的には常勤と同様な勤務実態があり、また現状の日本天文学会の健全な財政状況が、少なくとも今後数年は大きく変化することはないという見通しもあり、当該編集委員を常勤化することにしたいとの説明であった。議長から、理事長の判断も求められ、意見交換の後、評議員会としても、常勤化には異存がないことを確認した。

##### (4) 新事業について

日本天文学会の財政状況が好転し、繰越金が増加していることを受けて、臨時の事業として理事会で検討している、(1)講師派遣事業の強化、(2)年会登録料の減額、(3)天文学会百年史編纂、について関井理事より報告された。年会登録料の減額については、あまり広く薄くばらまくべきではない、という意見があった。百周年史編纂に関しては、単なるパンフレットを作るよりも、日本天文学会をこの機会に大きくアピールするような事業を考えるべきではないか、等の意見が出された。その他、欧文研究報告の購読料の減額キャンペーンを再び行ったらどうか等のアイデアも寄せられた。そこで、新事業については、具体的な案を考えて、次回の理事会、評議員会で再検討することとなった。

##### (5) 学術交流費による会員(学生)への旅費補助に関する報告

山本評議員より、学生を中心とした若手研究者

に対して、再びアンケートを実行する予定であるとの報告があった。さらに、賛助会員に宛てて、旅費補助実績等に関する報告書を作成して送ることも検討しているとの報告があった。

## 議 題

### 1. 「日本天文学会委員会等に関する共通内規」の改正と天文教材小委員会の名称変更（資料3）

杉山理事より、資料に基づいて改正案が提案され、質疑応答の後、承認された。天文教材小委員会は、天文教材委員会に名称変更される。

### 2. その他

#### (1) 特別会計の基金化に関する規程制定（補足資料）

関井理事より、内部留保水準の見かけ上の高水準を解消するために、財産運用に関する実務レベルの規程、すなわち「財務規程」を制定するという理事会からの提案と、規程の原案の説明があったが、継続審議となった。

#### (2) 「日本天文学会欧文報告論文賞内規」の変更

当該内規で、賞の名称を含め、正しくは「日本天文学会欧文研究報告論文」とあるべき箇所がすべて「日本天文学会欧文報告論文」と誤記されているので、修正したいとの提案が杉山理事よりあり、承認された。

#### (3) 次回以降の日程

次回の評議員会は、7月10日（土）、国立天文台で行うことを確認した。

2004年4月14日

議 長 海部宣男 印  
署名人 舞原俊憲 印  
署名人 吉井 謙 印

## 【2004年度春季通常総会議事録】

日 時：2004年3月23日（火）16:00～16:50

場 所：名古屋大学東山キャンパス 共通教育棟 3F, G 会場

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。総会出席者数は156名、事前投票総数は400名である。出席者のうちで事前投票をした36名については、事前投票を無効とした。したがって有効出席者総数は520名で、定足数（正会員総数1,526人の5分の1=306名）を満たすことを確認した。

次に署名人として柴崎徳明氏、松尾 宏氏が選出された。

つづいて各賞の授与式が行われた。はじめに山岡天体発見賞選考委員長の司会の下、天体発見賞、天体発見功労賞、天文功労賞が、以下の方々に授与された。

天体発見賞 板垣公一（4件）、高尾 明、西村栄男の各氏（6件、3名）

天体発見功労賞 串田麗樹（欠席）、山本 稔の各氏（2名）

天文功労賞 長期的な業績として豆田勝彦氏、短期的な業績として高橋 進・杉江 淳（共同受賞）、木下正雄の各氏（3件、4名）

つづいて、代表して高尾 明氏がスピーチを行った。

次に、研究奨励賞と林 忠四郎賞が、以下の方々に授与された。

研究奨励賞 上田佳宏、小松英一郎の各氏（2件、2名）

林 忠四郎賞 蜂巢 泉、加藤万里子の各氏（1件、2名）

## 議事の経過および結果

1. 2003年度事業報告が杉山理事より報告された（第1号議案）。
2. 2003年度決算報告および監査報告が、関井理事、吉澤監事より各々報告された（第2号議案）。
3. 松田理事長の質疑応答の呼びかけの後、第1号議案、第2号議案は賛成多数で承認された。

## 報告事項等

### 1. 名簿の流出について

会員から、会員名簿が名簿業者に流出しているとの報告を受けたことが杉山理事より紹介された。本年度は名簿改定が行われる予定もあるので、取り扱いには十分注意された。

### 2. 創立100周年記念出版事業について

祖父江副理事長（創立100周年記念出版事業編集委員）より、全15巻の内容の1次案を決定したこと、まもなく1次案をWeb上に公開し、会員に向けてアンケートを実施するとの報告があった。アンケート結果を参考に、内容を決定し、執筆者の選定を行う。

### 3. 「日本天文学会委員会等に関する共通内規」の改正と天文教材小委員会の名称変更

杉山理事より、標記内規の改正の経緯について説明があった。今後は、天文教材小委員会の名称が、天文教材委員会に変更される。

2004年4月20日

議 長 松田卓也 印  
署名人 柴崎徳明 印  
署名人 松尾 宏 印

## 日本天文学会 2004 年春季年会報告

2004 年春季年会は 3 月 22 日 (月)～3 月 24 日 (水) の 3 日間、名古屋大学東山キャンパス (愛知県名古屋市) にて口頭会場 8, ポスター会場 6 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 328 件, ポスター講演が 269 件あり, 合計で 597 講演だった。これに加え, ポストデッドライン講演が 2 件あった。年会参加者は 891 名 (ジュニアセッションと併せて 1,087 名) だった。開催地理事の佐藤修二氏を中心とする名古屋大学の方々の尽力で順調に行われた。企画セッションは「ガンマ線バースト天文学」(世話人: 河合誠之 (東工大/理研)・小杉城治 (国立天文台)・戸谷友則 (京大)) が開かれた。

座長は次の 41 名の方々 (下表) に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す (敬称略)。

### 〈記者会見〉

春季年会の前日, 3 月 21 日 13:30 から名古屋市科学館で記者会見を行った。松田卓也理事長よりの挨拶の後, 以下のトピックスについての解説が行われた。6 社の報道機関の出席があった。

### ○2003 年度第 8 回日本天文学会林忠四郎賞受賞者発表

受賞者: 蜂巢 泉 (東京大学大学院総合文化研究科)  
 加藤万里子 (慶応義塾大学理工学部)  
 研究の表題: 「新星風理論の構築と Ia 型超新星の起源の解明」

### ○研究発表

- (1) 「赤外線暗黒星雲を透かして見た, 銀河系の中心と星の誕生現場」

記者会見発表者:

佐藤修二 (名古屋大学・理学研究科)  
 長田哲也 (名古屋大学・理学研究科)

関連する講演番号: Q07b, P10b

- (2) 「ついに見つけた隠れたバリオンの存在—おとめ座銀河団のまわりに大量に存在する温度数百万度のガス—」

記者会見発表者:

藤本龍一 (宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部)

満田和久 (宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究本部)

関連する講演番号: T13a

- (3) 「高校生・高専生が行ったすばるの火星画像の解析」

記者会見発表者:

吉川 真 (宇宙航空研究開発機構, ジュニアセッション世話人代表)

鈴木文二 (三郷工業技術高等学校, 高校生天体観測ネットワーク総合事務局)

大西浩次 (長野工業高等専門学校)

畠 浩二 (岡山商科大学附属高等学校)

小菅 京 (東京工業大学工学部附属工業高等学校)

	3 月 22 日 (月)		3 月 23 日 (火)		3 月 24 日 (水)	
	10:00～12:00	14:00～16:00	9:00～11:30	13:30～15:30	9:00～11:00	13:00～15:00
A	服部 誠 (東北大)	北山 哲 (東邦大)	中村文隆 (新潟大)	中本泰史 (筑波大)	伊藤洋一 (神戸大)	—
B	小杉城治 (国立天)	戸谷友則 (京都大)	釜谷秀幸 (京都大)	岡本美子 (北里大)	尾崎正伸 (宇宙研)	阪本成一 (国立天)
C	半田利弘 (東京大)	岡村定矩 (東京大)	大向一行 (国立天)	家 正則 (国立天)	須藤 靖 (東京大)	祖父江義明 (東京大)
D	須佐 元 (立教大)	吉田直紀 (国立天)	村上 浩 (宇宙研)	田代 信 (埼玉大)	玉川 徹 (理化研)	石崎欣尚 (都立大)
E	田辺健茲 (岡山理科大)	出口修至 (国立天)	野澤 恵 (茨城大)	大木健一郎 (国立天)	桜井 隆 (国立天)	柴崎清登 (国立天)
F	中井直正 (国立天)	栗木久光 (愛媛大)	奥村幸子 (国立天)	若松謙一 (岐阜大)	本原顕太郎 (東京大)	立松健一 (国立天)
G	—	—	李 うみん (東北大)	福江 純 (大教大)	岩本弘一 (日本大)	茂山俊和 (東京大)
G	谷川清隆 (国立天)	柳澤正久 (電通大)	—	—	—	—



生徒の皆さん

関連する講演番号: ジュニアセッション 03, 04, 27  
 〈ASTRO-E2 特別セッション「X線天文衛星 Astro-E2  
 の拓く宇宙物理学」〉

本セッションは Astro-E2 サイエンスワーキンググループ主催、高エネルギー宇宙物理学連絡会の共催により、3月22日17:20から19:00まで開催されました。2005年1~2月打ち上げ予定の Astro-E2 衛星の公募観測に対して多くの研究者の方に応募していただくことを目的に、まず観測装置の性能および公募観測について Astro-E2 チームから発表を行い、次にいくつかの分野の方をお招きして Astro-E2 衛星を用いたサイエンスの可能性を論じていただきました。プログラムは以下のとおりでした。

1. あいさつ 井上 一 (宇宙航空研究開発機構)
2. Astro-E2 衛星の概要と観測公募  
満田和久 (宇宙航空研究開発機構)
3. Astro-E2 で探る銀河団のダイナミクス  
大橋隆哉 (東京都立大)
4. Astro-E2 で活動銀河核について観測したいこと  
亀野誠二 (国立天文台)
5. Astro-E2 で迫る星・惑星形成  
田村元秀 (国立天文台)

まず Astro-E2 チームを代表して、プロジェクトマネージャーの井上氏からあいさつと衛星打ち上げへの経緯、満田氏により衛星と観測装置および公募観測の詳細についての説明がありました。それに続き Astro-E2 の拓くサイエンスとしてまず大橋氏から銀河団の高温プラズマを中心とする研究の展望を紹介していただきました。次に亀野氏から電波観測の最新結果を織り交ぜながら巨大ブラックホール連星軌道運動や降着円盤の物質分布の観測提案について講演していただきました。最後に田村氏から星生成領域の研究分野に Astro-E2 衛星がどのように寄与できるか、なぜ X 線で観測するのか、といった基礎とレビューから、フレアや円盤の運動を調べる提案まで、分かりやすく発表していただきました。X 線天文衛星をコアにした特別セッションを行うのは初めてであり、世話人側はどれだけの人が興味をもって集まってきていただけるか正直不安でしたが、定員約 300 人の会場が一杯となり、Astro-E2 衛星への関心の高さと期待を確認することができました。最後に、講演者および多数の参加者の方々と学会関係者に感謝いたします。世話人は國枝秀世、鶴 剛、大橋隆哉が務めました。(鶴 剛)  
 〈ALMA 特別セッション〉

LMSA 特別セッションから通算 9 回目を数える今回の ALMA 特別セッションは、日本の ALMA 建設予

算が認められることが確実にになった3月24日の15:00から、最終日の午後にもかかわらず200人あまりの参加者を得て開かれた (ALMA 建設の初年度分を含む平成16年度予算はその2日後の3月26日に成立した)。日本天文学会、日本学術会議天文学研究連絡委員会、同天文学国際共同観測専門委員会、同電波科学研究連絡委員会 J 分科会、国立天文台電波専門委員会 ALMA 計画推進小委員会の共同主催により、以下のプログラムが進められた。

#### 1. あいさつ

天文研連委員長 池内 了  
 国立天文台アルマ計画準備室長 石黒正人

#### 2. アルマの建設計画

国立天文台アルマ計画準備室  
 プロジェクトマネージャー 長谷川哲夫  
 国立天文台アルマ計画準備室  
 プロジェクトサイエンティスト 川辺良平

#### 2. 議論

世話人は池内 了、長谷川哲夫、福井康雄、水野範和が務めた。(長谷川哲夫)

〈ジュニアセッション〉

第6回のジュニアセッションを開催した。今回も天文教育普及研究会には共催となっていたほかに、日本惑星協会と名古屋市科学館に後援していただいた。また、高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) とも協力して開催した。口頭発表のセッションは、3月22日の午前 (10:00~12:00) および午後 (14:00~16:00) に行われ、また会期を通じてポスターでも発表がなされた。口頭発表26件 (うち20件はポスターでも発表) とポスター発表8件があり、合計34件の発表があった。これは、今までのジュニアセッションで最も多数である。件数が多かったため、口頭発表では六つの分野に分けて、分野ごとに質疑応答を行った。口頭発表のセッションでは、参加者が280名ほどあり非常に盛況だった。また、日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報センター、ライブ!ユニバースのご協力により、口頭セッションはインターネットで中継された。発表内容は多岐にわたっていたが、どれも発表者の熱意が伝わってくるものであった。なお、口頭セッションの司会は、北原政子氏、澤武文氏、高村裕三郎氏、若松謙一氏にお願いした。セッション参加者には、今までと同様に研究発表についてコメントを書いてもらった。今回のジュニアセッションでも、上記の諸機関の方々に加えて、開催地のスタッフの方々に多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。(吉川 真)

〈天文教育フォーラム〉

「天文分野、これを教えたい、これを教えてほしい」というテーマで、天文教育普及研究会と共催で3月22日(16:00~17:20)に行われた。180名の参加者があり、盛況であった。今回のテーマは、学習指導要領の一部改訂を見据えて、以下のようなさまざまな立場の方々から、講演およびコメントをしていただいた。

- 基調講演「新しい科学の教科書について」  
左巻健男(京都工芸繊維大)
- コメント「教科書執筆研究者の立場で」  
家 正則(国立天文台)
- コメント「学校教員の立場」  
五島正光(巣鴨中学・高等学校)
- コメント「一般普及書執筆者の立場」  
杉山 直(国立天文台)
- コメント「図鑑監修の立場」  
半田利弘(東京大学理学部天文学教育研究センター)
- 総合討論

はじめに、左巻氏から、基調講演という形で、教科書改訂をめぐる動き、「新しい科学の教科書」を出版した経緯をお話いただいた。家氏は、研究者との立場から教科書執筆の状況をコメントし、すばる望遠鏡やX線天文衛星の観測成果など、日本発信のデータを教科書に入れたいというコメントがなされた。五島氏は、学校教員の現場の立場で、教科書の現状についてコメントを行った。特に、小学校から高校まで見通した学習の再配置が必要だという意見があった。杉山氏からは一般普及書と教科書の違い、半田氏からは図鑑と教科書の違いから、教科書は「本物を見極める力を養うもの」「基礎的素養をつける」「興味をもつきっかけである」とのコメントがあった。「雑報」(366頁)を参照。(矢治健太郎)

〈公開講演会〉

講演会のタイトルは「宇宙への誘い」で、3月20日(日)14:00より名古屋市科学館で開催された。松田卓也理事長(神戸大学教授)の挨拶の後に、まず國枝秀

世氏(宇宙航空研究開発機構教授)の講演「宇宙に潜む魔物に挑む」が行われた。ブラックホールを魔物に例えて、X線による観測でこの魔物の正体や「火を噴く様子」(X線放射)が見えてきたことや、さらには一見難しそうなアインシュタイン方程式の解としてのブラックホールの話から、最新の観測例まで、多数の図を交えながら終始観衆をあきさせることなく、わかりやすく講演が進められた。休憩後には、松原隆彦氏(名古屋大学助教授)により「不思議な宇宙の構造」のタイトルで講演が行われた。太陽から宇宙の大規模構造、ひいては宇宙の大きさの紹介から始まり、宇宙の大規模構造の不思議さを観測と理論の両方から解説された。宇宙の膨張については、最新データも紹介され、科学館のリピーターが多いという観衆も、多に関心をはかれた様子であった。

入場者数は340名で、各々の講演の後は活発な質問が出て、科学館の閉館時間を過ぎてもまだ講演者に質問をする様子も見られた。来場者には、冊子が配られた。(田 光江)

〈通常総会〉

「通常総会報告」(379頁)を参照。

〈懇親会〉

懇親会は3月23日(火)18:30~20:30に、名古屋大学東山キャンパスの大学生協フレンドリー南部において開催された。参加者は337名であった。理事長の松田卓也氏の挨拶、山下広順氏の歓迎の挨拶および乾杯で始まった。懇親会中に次回開催地を代表して岩手大学の花見仁史氏による挨拶があった。(佐藤修二)

〈保育室〉

保育室は学会会場と同じ建物内にある教室を使用した。机と椅子を運び出し、畳20枚を敷いた。7家族、子供の延べ24人の利用があった。保育者の派遣は(株)ケアメイトサービスに依頼した。準備と運営にあたって名古屋大学の長嶋千恵さんほかにご協力いただいたことを感謝する。(加藤万里子)

(年会実行委員長: 土居 守)

編集委員 土橋一仁(編集長), 上田暁俊, 大石奈緒子, 太田耕司, 亀野誠二, 濤崎智佳, 藤田 裕, 洞口俊博, 増田 智  
 平成16年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献印刷社  
 定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
 Tel: 0422-31-1359(事務所)/0422-31-5488(月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595  
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)